

白髪染めはたっぷり使つて



The Asahi Shimbun

自宅で染めるポイント

- 染める前に**
 - ・パッチテスト
 - ・顔周りや耳に保護クリーム
- カラーを塗る**
 - ・白髪部分から塗る
 - ・ハケは寝かせてたっぷり
 - ・耳周りの塗り残しに注意
 - ・すすぐ前に洗面台に水をかけると汚れがつきにくい
- きれいにみせる**
 - ・2カ月に一度は全体染め
 - ・時々明るさを変える

街を歩くと、髪をきれいに染めている多くのシニアに出会う。美容師の吉永恭子さんは「染めた髪と白髪では、印象が20歳くらい変わる人もいる」という。

花王の調べでは、若い世代は美容室で染めるのに対して、白髪用のヘアカラーを使い始める40代以上になると、自宅で染める人が増える。同社総合美容技術研究所の三枝千尋さんは「染める頻度が高くなり、美容室だとお金や時間がかかるためではないか」と話す。

三枝さんと鈴木美登利さんに、自宅で白髪を染めるポイントを教わった。明るさは今の髪色を基準に、変えても1トーンまで。黒髪用では白髪は染まらない。

カラー剤にはクリームタイプや泡タイプなどがある。生え際など一部分を染めたい時は、小分けして使え、取り置きできるクリームタイプ、全体を染める時は泡タイプを使うといい。

カラー剤の使用量の足りない人が、意外に多いという。少ないと、色の染まりが薄くなってしまふ。「白髪用は脱色力が弱く、明るくなりすぎる心配はないの

で、たっぷり使つてください」

男性用のヘアカラーもある。選び方や染め方は女性と同じだが、髪が短い分、短時間で染まるようになっている。いきなり色が変わることのためらう男性は多い。そういう人向けに、真っ黒ではなく中間のグレーなどに染める商品もある。

白髪でももちろんおしゃれに染めたい。白髪の傾向に合わせた、上品に見える服の色選びを日本カラーコーディネーター協会認定講師の桑野恵美さんに尋ねた。白髪にも大きく分けて、銀色のような真っ白と、ク

リーム色っぽいオフホワイトの2種類ある。真っ白なら、白・黒・グレーを基本とし、挿し色に青系や紫系をもつてくると、「モダンで知的」な雰囲気になる。オフホワイトならベージュや茶を基本にし、オレンジや緑を入れると、明るさや親しみやすさが出る。

挿し色は、ストールやチーフ、服のインナーなどに近いところで使うと効果的だ。やさしい色の方がなじみやすい。「似合うかどうか不安な人は、その色のハンカチなどを顔にあて、じっくりくるか鏡で試してみて」と桑野さん。

▼あすは「頭皮のお手入れ」です